

第二次の特定外来生物に選定することが適切と考えられる外来生物(無脊椎動物)に係る評価の理由(案)

無脊椎動物

特定外来生物の指定対象とすることが適切である外来生物	被害の概要	評価の理由
チュウゴクモクスガニ	生態系(競合・駆逐、遺伝的攪乱)	・アメリカやヨーロッパでは定着して競合等により在来種の減少等の影響を与えており、生態系に与える影響は大きいと考えられる。特に、わが国では、在来のモクスガニとの交雑及び病原菌の感染により著しい影響を与えるおそれがある。
Astacus 属	生態系(競合・駆逐、捕食)	・冷水温を好むため、在来種であるニホンザリガニの生息する東北や北海道に定着する可能性が高い。特にターキッシュクレイフィッシュは繁殖力が旺盛で、西ヨーロッパ諸国で在来のザリガニを駆逐しており、国内に定着すればニホンザリガニと競合し、駆逐するおそれがある。
ウチダザリガニ	生態系(競合・駆逐、捕食)	・在来種であるニホンザリガニとの競合及びザリガニカビ病を蔓延させるおそれがある。また、様々な在来の底生生物や水草を捕食することによる生態系への影響も大きい。
ラスティークレイフィッシュ	生態系(競合・駆逐、捕食)	・アメリカでは、国内移入種として在来のザリガニ類と競合し駆逐しているうえ、捕食および他の生物の生息空間を攪乱することで、淡水生態系に甚大な影響を及ぼしている。また、ヨーロッパ諸国においては、ザリガニカビ病により在来のザリガニ類の死亡率を著しく高め、個体群を壊滅させるほどの被害を与えており、我が国に定着すれば在来のニホンザリガニが絶滅するおそれもある。
Cherax 属	生態系(競合・駆逐、捕食)	・攻撃的で大型になる種が多いザリガニ類で、温暖な亜熱帯地域から冷水域まで幅広い地域に定着する可能性が高く、これらの地域の生態系を大きく攪乱するおそれがある。
ヤマヒタチオビ(オカヒタチガイ)	生態系(捕食)	・ナメクジ、カタツムリ等を捕食する肉食性の巻貝で、諸外国でも多くの陸産貝類を絶滅の危機に追い込んだ実績があり、わが国でも小笠原で固有の陸産貝類に甚大な影響を与えている。
カワヒバリガイ属	生態系(競合・駆逐)	・カワヒバリガイ属の一種であるカワヒバリガイはすでに国内の一部に定着しており、付着による生態系基盤の改変や在来の二枚貝類の駆逐のおそれがある。また、吸虫類の第一宿主としての魚病被害の発生による在来魚類の重大な影響が懸念される。海外でのカワヒバリガイL. fortuneiとしての被害知見の多くには、カワヒバリガイ類数種が含まれている可能性が高く、また、既知のLimnoperna属の各種は足糸による基質への固着習性を持つなど、共通の生態的特徴を備えているため、他の種類も侵入すれば同様の被害を与えられられる。
カホトキスガイ(セブラガイ)及びクワガガイ	生態系(競合・駆逐)	・爆発的に増殖して様々な基盤に付着することから、五大湖などで大発生して、淡水生態系に対し深刻な被害を与えており、日本へ侵入・定着すれば同様な被害の発生が懸念される。
ニューギニアヤリガタリクスムシ	生態系(捕食)	・貝類を捕食するコウガイビルの中で、諸外国でも多くの陸産貝類を絶滅の危機に追い込んだ実績があり、琉球列島や小笠原諸島に侵入しても小笠原のカタマイマイ類等の固有陸産貝類に甚大な影響を与えている。